

# 2020(令和2)年度 事業報告

社会福祉法人おおつ福祉会

## 1 情勢報告

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、2020年4月7日に13都道府県を対象に非常事態宣言が出され、4月16日に対象が全国に拡大された。

滋賀県で感染された方は2020年4月9日現在で33人だったものが、2021年4月8日現在2924人となっている。(NHK調べ)

法人内では、日々の健康観察、感染防止の取り組み、行事の中止など、利用者・家族と職員が協力して乗り切ってきたが、まだまだ終息は見通せず、感染拡大が波状的に続いている。

人々の行動制限に伴う経済的影響も大きく、仕事を失う人、収入減少などで生活を脅かされる人が続出、事業所のイベント・利用者工賃にも大きな影響が出ている。

2021年報酬改定は、半年だけ基本報酬に0.1%上乘せを行う措置を行った。

こうした事態に対して、場当たりの対応策ではなく、公衆衛生・医療保障など人々の命を守る基本的な制度の再構築に向けて、共同の取り組みが必要となっている。

## 2 法人の重点課題の概要

- (1)人材確保については、雇用情勢の深刻化を踏まえ、4回の採用試験を実施し、正職員を6人、年度途中も含め契約職員を5人採用した。また、契約職員1人を正職員へ転換した。
- (2)新任・中堅研修については、職員のニーズに合わせた内容とし、後述のように計画的に進められた。施設長研修については独自の取り組みはできなかった。
- (3)学生実習を2事業所で、延べ5人受けとめた。
- (4)ショートステイむくの木に移転については、引き続き移転先の検討を進めたが、適当な移転先を決定することができなかった。
- (5)きょうされん国会請願署名6645筆を集めた。
- (6)未収金について、個々のケースの事情に応じた取り組みを、大津市等の関係機関と連携をとって進めた。
- (7)芸術活動については、事業所合同でホームページで作品展を実施した。また作品がびかつtoアート展等に入選した。
- (8)後援会・家族会連合会と共同の取り組みについては新型コロナウイルスの影響で行事を実施することができなかった。

## 3 組織的な課題等

引き続き、施設長会議に理事長も出席し、業務を執行した。

苦情委員会において、苦情として取り上げられたのは25件で、第三者委員に申し立てられたものはなかった。

## 4 他の組織との連携

- (1)きょうされん滋賀支部へ副理事長・事務局長、常任理事を派遣し、大津ブロックとしても副ブロック長を担った。滋賀支部として県との交渉及び大津ブロックとして大津市へ要望書を提出した。
- (2)大津市福祉施設協議会の事務局、OSKの副会長、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。
- (3)おおつ福祉会後援会との連携では、事務局を担い、運営委員に法人役員を派遣した。地域のまつり等のイベントはすべて中止となった。  
後援会から法人に2,000千円の寄附を頂いた。
- (4)家族会連合会との懇談会を1回開催した。

## 5 財政運営

- (1)資金収支計算書の当期資金収支差額が15,264千円となった。
- (2)建設積立金を積み立てた。(積立額5,220千円)

## 6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 ( )内定員	事業量		
		H30年度実績	H31年度実績	2020年度実績
障害福祉サービス事業 (日中活動)	①唐崎やよい作業所(生活介護34人)	7,669人/年	7,270人/年	7,210人/年
	②社会就労センターこだま(就労継続B40人)	7,785人/年	7,428人/年	6,949人/年
	③社会就労センターあおぞら (生活介護30人)	7,376人/年	7,355人/年	7,100人/年
	④多機能型事業所ふうね(就労継続B30人) (就労移行6人)	5,964人/年 150人/年	5,860人/年 351人/年	5,455人/年 392人/年
	⑤おおぎの里 (生活介護15人) (就労継続B15人)	2,541人/年 1,926人/年	3,303人/年 1,736人/年	2,737人/年 1,922人/年
	⑥なんぶでいセンター(生活介護13人)	1,011人/年	休止	廃止
	⑦「伊香立の杜」木輝 (生活介護40人) (生活訓練10人)	10,781人/年 休止	11,258人/年 休止	11,842人/年 休止
グループホーム・ケアホーム	①南志賀ひまわりホーム(共同生活援助45人)	13,261人/年	12,697人/年	11,588人/年
	②伊香立の杜ケアホーム(共同生活援助38人)	12,231人/年	12,704人/年	12,732人/年
ショートステイ	①ショートステイむくの木(短期入所10人)	2,620人/年	2,477人/年	2,193人/年
	②伊香立の杜ショートステイ(短期入所12人)	2,816人/年	2,975人/年	3,108人/年
ホームヘルプ等	①おおつ福祉会ホームヘルプセンター	14,779時間	13,383時間	11,074時間
	②日中一時支援事業	926回	554回	460回
相談支援事業	①相談支援事業所ひびき	5,598件	5,243件	5,057件

## 7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

### (1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/ 監事総数
2020年 5月27日(水)	社会就労センターこだま	5/7	2/2
8月26日(水)	大津公民館	6/7	2/2
12月9日(水)	大津公民館	7/7	1/2
2021年 3月24日(水)	大津公民館	7/7	2/2

### (2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/ 評議員総数
2020年 6月14日(日)	社会就労センターこだま	5/8

### (3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
2020年 5月8～15日(金)	「伊香立の杜」木輝	馬場監事・平井監事

## 8 研究・研修部

本年度研修部が企画・実施した研修以下の通りである。なお、新型コロナウイルスの影響により、法人全体で行う研修は中止し、各事業所での研修とした。

研修部会議は年間14回実施した（前年度21回実施）。会議時間は原則45分間で終了できるよう会議前に検討案件を知らせるようにした。また、会議後は会議報告を全事業所へ送り、研修部員が在籍していない事業所と情報の共有ができるように取り組んだ。

コロナ禍で様々な制限のある中、研修部が中心となり、各事業所の研修を所長・主任と話し合いながら企画するという研修形態で進めた1年間であった。試行錯誤しながらではあったが、新しい試みの研修を企画できたことは成果として上げられる。課題としては、事業所単位での研修ということで、他事業所の職員との意見交流など幅広い議論ができなかった。来年度に向けて「新しい研修の形」を模索しながら進めていきたいと考える。

### (1) 新任・中堅研修 → 研究集会

前年度、新型コロナウイルスの影響により実施できなかった研究集会を新任・中堅研修5月29日（土）・5月30日（日）の日に延期することにしていく。

結果、4月16日に緊急事態宣言発令、5月14日解除になったが中止という判断をした。

### (2) 人権研修 2019年11月21日（土）8:45～17:15 場所：各事業所

研修部学習会を実施し、それぞれ問題意識を持っている分野からテーマ2つ選び各事業所で研修を実施した。

#### ① A L Sについて基本知識や安楽死事件資料での学習

「A L S当事者たちの声」資料

グループワーク

#### ② 精神障害について 歴史等資料での学習

「身体拘束がない国へ ニュージーランドからの報告」資料

グループワーク

### (3) 中堅研修 / 新任フォローアップ研修

例年、12月～2月上旬にかけて実施してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止とした。

### (4) 研究集会 2021年2月27日（土）8:45～17:15 場所：各事業所

各事業所で年間を通してレポート作成を行った。レポート集・資料集を作成した。

実践報告は事前に録画し、各事業所で当日流すことにした。その後グループワークを実施する形で本年度の研究集会を開催した。

## 9 会議報告

### (1) 事業企画部 開催回数3回

#### ① コロナ禍で複数の事業所職員が集合して会議を開催することが困難な時期であったため、10月までは開催を見送ることとした。

大きな課題の「むくの木」移転にかかわっては、具体的には土地の問題であり、土地探しも含め、事務局が中心となり、進めてきた。何ヶ所かの候補地も上がり、その都度、設計図も立てながらの検討をしてきたが、進展はなかった。

②今年度の3回の会議については、これまでの情報（大津市内の施設建設等に関する情報等）の共有。  
むくの木移転に係る進捗状況や、次期中期計画に向けて各事業所内での課題整理をしていくことを確認した。

## (2) 居宅会議 年間5回開催

### 内容

各事業所の報告は要点をまとめて報告してもらい、①新移動支援について、②新型コロナウイルス感染症について、③むくの木移転について、を議論した。

- ①については、令和3年7月からの移動支援制度が変更になることで、ガイドラインを基に勉強会を行い、新制度での運営の難しさや利用負担金について情報共有した。
- ②について、新型コロナウイルスの感染予防の学習や、実際に濃厚接触者への支援を行ってわかったことなどの情報共有を行った。また、新型コロナウイルス感染症感染者および濃厚接触者に対して支援を行った職員への、手当についての議論も行った。
- ③については、移転先が決まらない中で具体的な話を進めることはできなかったが、候補に挙がっている土地や物件に関して議論を行った。

## (3) 給食部会

コロナ禍のため調理師と給食委員が集まるのをやめ、各事業所に管理栄養士が行き聞き取りを行った。

やよい作業所 会議4回

社会就労センターこだま 会議10回

社会就労センターあおぞら 会議2回

おおぎの里 会議1回

多機能型事業所ふうね 会議2回

伊香立の杜 木輝 会議10回

### 内容

- ・髪の毛の混入があった。粘着テープの使用を必ずする。
- ・器具・食器の傷みがあり買い替えをおこなう（こだま・やよい・伊香立）
- ・夏前の雨で葉物野菜の価格高騰した。食数に関係する行事などは早めに連絡する。
- ・手洗い・マスク・アルコール消毒を徹底する。
- ・各事業所コロナ対応をした食事の提供になる。（二部制・机に飛散防止シート・食事場所の変更・食事人数を減らすなど）
- ・フードバンクから食材の提供があった。給食に使用した。
- ・プラスチック手袋やニトリル手袋が高騰している。（大切に使う）

## (4) 広報会議

2020年度はリーチ57号・58号の2刊を発行した。

9月発行の57号では、コロナ禍での伊香立ケアホームの過ごしの様子、新任職員の紹介、2019年度の決算報告を、3月発行の58号では、おおつ福社会の事業所の活動紹介、法人作品展web版の紹介、障害者をテーマにしたおすすめ映画の案内記事を掲載した。

また、利用者2人を紹介する企画「この人にクローズアップ」を毎号掲載した。

## (5) 美術会議 1回開催

- ・作品展応募結果

関電コラボアート 佳作 1人 ぴかっtoアート 審査委員賞1人 入選 4人

グッズデザインコンクール 入選 2人 損保パラリンアート2020 滋賀県賞 1人

ING展展示

・おおつ福祉会合同作品展

新型コロナウイルスの感染防止のため、ギャラリー展示は中止し、おおつ福祉会 コローレホームページ上において作品掲載した。

## 10 各事業所の報告

### (1) 唐崎やよい作業所

#### 1. 利用実績 (定員34人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	21	18	23	22	19	21	23	20	21	19	18	23	248
契約者数 (人)	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396
利用者延出勤数 (人)	603	543	650	629	513	595	670	584	622	565	547	689	7210
対定員利用率 (%)	84.7	88.8	83.2	84.1	79.4	83.5	85.9	85.9	87.4	87.6	89.4	88.2	85.6

#### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 長期欠席者一人の方は、家庭の事情でショートステイ利用に伴い通所を再開したが、グループホーム入居に伴い、通所が困難になるため他事業所へ3月移行となり契約数32人となった。
- (2) 利用者の日中活動を充実させるために仕事 (手織り・陶芸・リサイクル)、文化的活動 (音楽・造形・絵画等)、身体を動かす活動 (散歩・体操等)、毎週1回の定期的なレクリエーション (誕生日会、合同造形、カラオケ、グループ活動、季節行事等) は感染症防止のため、密にならないように小集団にし、活動場所や内容も変更しながら取り組んだ。一泊旅行は、中止とした。  
オリジナルTシャツの制作販売では、ポストイン、FAX等での販売をさせてもらった。例年以上に多くの人に購入していただくことができた。
- (3) 車両1台 (10人乗り) の助成金の申請を準備したが、対象車両がなかったため見送った。陶芸窯を「しがぎん福祉基金」の助成を受け購入することができた。またwindows7のサポート終了に伴いwindows 10以外のパソコン8台をリース契約した。
- (4) 利用者の発達検査とケース検討会を実施し活動の振り返りを専門講師とともに実施した。また強度行動障害巡回相談も受けた。
- (5) やよい通信を9月と3月に近隣地域へ配布した。また陶芸ボランティアに来ていただき、作品作りを進めることができた。感染症防止のため介護体験等の受け入れは中止になった。

#### 3. 苦情・事故等

苦情1件 事故2件

### (2) 社会就労センターこだま

#### 1. 利用実績 (定員40人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開所日数 (日)	21	18	23	22	20	21	24	19	21	21	18	24	252
契約者数 (人)	43	43	43	43	43	42	41	41	40	40	40	41	500
利用者延出勤数 (人)	586	568	674	639	535	585	658	516	533	514	488	653	6,949
対定員利用率 (%)	64.9	73.4	68.2	67.6	62.2	66.3	66.9	66.2	63.5	61.2	67.8	66.4	66.2

## 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 契約者43人でスタート。年度途中で他事業所(高齢者施設を含む)への移行に伴う退所や亡くなられた方がおり40人となった。年度末には、新規契約を結ぶ事ができ契約者は41人となった。
- (2) こだまの現状を踏まえた利用者の処遇に関しては、関係機関と連携しながら高齢者施設への入所や日中事業所への移行があった。また、事業や作業内容の検討については、大幅な作業班編成と週案の見直しを行った。
- (3) 専門家による利用者の発達検査とケースカンファレンスを実施する事ができ、利用者理解や実践内容を職員全体で共有し検討する機会となった。(5回/年)
- (4) 一般就労に向けて、関係機関と連携しながらハローワーク主催の合同面接会へ参加し企業実習をする事ができた。
- (5) 新型コロナウイルスの影響で日帰り旅行は中止となったが、代替えとなるイベントを事業所内で感染症対策をしながら行った。また、クラブ活動についても感染症対策をしながら実施している。スクラムの会(利用者自治会)は、ここ数年、行事の参加者が減っている事などを踏まえ、利用者と共に行事の整理と会費の減額をした。
- (6) 「ぜぞこだまわっしょい夏まつり」は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。また、介護等体験については、カリキュラムの変更に伴い実習依頼がなかった。資格取得の実習やインターンシップ、支援学校からの実習については、感染症対策として実習人数の調整をしながら行った。
- (7) 美術活動や表現活動にも積極的に取り組んだ。また、WEBサイト「ころーれころーれ」で行われた合同作品展にも出品する事ができた。

## 3. 苦情・事故等

苦情0件 事故4件

### (3) 社会就労センターあおぞら

#### 1. 利用実績(定員30人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	22	19	22	22	18	21	22	20	21	19	18	23	247
契約者数(人)	35	35	34	34	34	34	34	32	32	32	32	32	400
利用者出勤数(人)	662	549	649	651	515	615	645	548	582	519	514	651	7,100
対定員利用率(%)	100.3	104.3	98.3	98.7	95.7	97.7	98.0	91.3	92.7	913	95.3	94.7	96.7

#### 2. 重点課題に関する取り組み

- (1) 年度当初は契約者数35人だったが、1人が他県の入所施設へ、1人が他事業所に移動、またもう1人が逝去され、年度終わりには32人の契約者数となった。
- (2) 厨房の食洗器を購入した。また旧パソコンをWindows10搭載機に更新した。  
新型コロナウイルス感染症の影響により、例年出展していた骨董祭をはじめ、ほとんどのイベントが中止となり、自主製品の販売や展示の機会を失った。しかしそういった中でもING展やSOMPOパラリンアートカップ2020などに積極的に絵画作品を応募し、受賞や入選に至るケースもあった。  
地域との交流を目的として、2020年度より開催する予定であった「あおぞらマルシェ」は新型コロナウイルス感染予防のため中止とせざるを得なかった。

#### 3. 苦情・事故等

事故0件、苦情7件

## (4) 多機能型事業所ふうね

### 就労継続支援B型（あこーる）

#### 1. 利用実績（定員30人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	18	22	23	20	22	24	21	22	20	20	23	256
契約者数(人)	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
利用者出勤日数(日)	467	405	491	494	399	461	511	431	465	412	411	508	5455
対定員利用率(%)	74.1	75.0	74.4	71.6	66.5	69.8	71.0	68.4	70.5	68.7	68.5	73.6	71.0

#### 2. 重点課題に対する取り組みについて

- (1)今年度は、入所、退所者がなく25人の契約者数だった。
- (2)工賃目標については、年額一人平均85,000円（交通費補助含む）となり目標達成できなかった。  
原因としては、昨年から続く新型コロナウイルスの影響が大きく、例年就労会計の2/3を占める箱折りの仕事が激減したためであった。箱折りに変わる活動として、新たに創作活動を行った。織物や絵画、木工活動を行い、絵画では、ぴかっとアート展に出展した。
- (3)一般企業への就労者は希望者がおらず達成できなかった。
- (4)利用者の、見えにくい不安や課題を心理職と連携をとった。また、職員会議の中で支援員の学習・研修時間を設定し日常の活動に活かすよう取り組んだ。
- (5)利用者が主体となる取り組みとして、利用者自治会運営の支援をおこなった。今年度に関しては、新型コロナウイルスの影響で一泊旅行や各種行事が取り組めなかった。事業所内の取り組みとして、農作物収穫祭、忘年会等を実施した。
- (6)地域の特別支援学校より、実習および見学を積極的に受け入れた。また、地域の社会福祉施設（高齢・障害・保育分野）が課題を共有し横のつながりを活かすため天津市社協の志賀・北部ブロック施設連絡会に今年度も参加した。

### 就労移行事業（ころーれ）

#### 1 利用実績（定員6人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	21	18	22	21	17	20	22	19	20	19	18	23	240
契約者数(人)	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	37
利用者出勤日数(日)	42	33	41	37	22	26	28	34	27	39	39	40	408
対定員利用率(%)	33.3	30.6	31.1	29.4	21.6	21.7	21.2	29.8	22.5	34.2	36.1	29.0	28.3

#### 2 重点課題に対する取り組みについて

- (1)新型コロナウイルスの影響で年度の前半は見学・実習の依頼がなかった。後半からは、特別支援学校からの見学・実習の受け入れを行った。支援方針や活動内容も含め関係機関へ知らせる機会となった。また、来年度の新規利用者は一人となった。
- (2)就職後も含めた生活に必要な知識等を学ぶ時間を設定した。体験活動は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。様々な申請手続き等、自分で行えるように支援を行った。
- (3)生活や仕事、自己理解などに関する相談の時間を設定した。
- (4)就職活動に向けて、法人内や外部への実習を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で実習の実施はできなかった。所内実習として、こんにやく製造に入り、集団で仕事を進める経験を積んだ。
- (5)ホームページ運営では、法人内の自主製品の紹介やブログを通じてふうねの取り組みや利用者の書いた記事等の発信を行った。新たにふうね創作作品・法人の作品展ページを追加した。新型コロナウイルスの影響で地域との交流に制限がある中、発信ツールとして活用することができた。ネットショ



ップでは、B型利用者の絵画作品をデザインしたバッグをオリジナル商品として販売した。また、ふうね内にギャラリー兼、実店舗として、ネットショップの商品や創作活動の作品販売も開始した。パンフレットの更新を行った。

- (6) 新型コロナウイルスの影響で、相談支援事業所と連携し、引きこもり等の地域支援の動きを作ることはできなかった。
- (7) 社会福祉士の実習に関して、法人内の事業所に協力を得て受入れ実施した。
- (8) 法人嘱託医にスーパービジョンを受け、各事業所からのケースも含めて検討会を実施した。
- (9) 心理職として、他法人のスーパービジョンを実施した。

### 3. 苦情・事故等（共通）

苦情 2件、事故 2件

## （5）障害者福祉サービス事業所おおぎの里

### 1. 利用実績

#### ○生活介護（定員15人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	20	23	22	19	21	23	20	22	20	19	24	255
契約者数（人）	18	18	18	17	18	17	17	17	18	17	16	16	207
利用者延出動数（人）	244	241	263	249	188	198	222	211	242	246	197	236	2737
対定員利用率（%）	74.0	80.7	76.7	76.0	66.0	63.3	64.7	70.7	73.3	72.0	69.3	66.0	71.3

#### ○就労継続支援B型（定員15人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	20	23	22	19	21	23	20	22	20	19	24	255
契約者数（人）	11	11	11	10	11	11	12	13	13	13	13	13	142
利用者延出動数（人）	150	136	158	157	125	165	175	173	175	156	157	195	1,922
対定員利用率（%）	46.0	45.3	46.0	48.0	44.0	52.7	51.3	58.0	53.3	52.0	55.3	54.7	50.7

### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 生活介護利用者は生活面での課題から、県外への入所施設に3人が移行し、退所することになった。10月からは法人内の移行により1人契約し、期間限定で12月～1月まで1人契約をした。また、就労継続支援B型は4月に1人退所し、8月・11月に新規利用者の契約を行った。9月に法人内利用者の移行があり、計3人の契約を行い、契約者数を12人以上にすることが出来た。
- (2) 法人内外利用者、養護学校の学生など実習生の受け入れを行うことが出来た。
- (3) エレベーター機能の維持修理については、不具合がなかったこともあり、次年度以降に実施していく。
- (4) キャラバン1台を新たにリース契約し、新車に入れ替えた。
- (5) おおぎの里フェスタは、新型コロナウイルスのため、中止となった。
- (6) 発達検査及びケースカンファレンスについては、1人実施することが出来た。

### 3. 苦情・事故等

苦情1件、事故1件

## （6）「伊香立の杜」木輝

### 1. 利用実績

## 生活介護（定員 40人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	19	24	23	18	22	24	21	21	19	18	24	255
契約者数（人）	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	576
利用者延出勤数（人）	999	871	1111	1058	833	1020	1113	975	988	884	850	1137	11,842
対定員利用率（％）	113.8	114.8	116.3	115.0	115.8	116.0	116.0	116.3	117.8	117.8	118.3	116.3	116.3

年度初めにコロナの影響で、利用率が下がったが、電話対応等で、結果的には例年通りの利用率で落ち着く。

### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 年度初めにコロナ禍の影響で、利用率が下がったが、電話対応等で、結果的には例年通りの利用率で落ち着く。また、計画に沿って、土曜日開所を設け運営することができた。しかし、集団活動を控えたことで、外部とのつながりが持ちにくく、室内や集団を細かくし、外活動（主に散歩）を増やすことで調整をした。
- (2) 修繕についても、（3階空調取り換え）計画通りに進めてきた。昨年度同様、照明関係については故障箇所をLEDに切り替えを行ってきた。
- (3) 行事（納涼祭、旅行、運動会等の年間の行事等）については、コロナ禍のためにすべて中止をしたが、餅つき大会は、日中のイベントとして、内部だけで取り組んだ。
- (4) 発達検査については、新たな講師を探すことができず、実施出来なかった。しかし、行事等がなくなったため、内部研修を充実させてきた（土曜日開所、平日の夕方等の利用）
- (5) 家族、地域、他団体との連携  
今年度については、コロナ禍のため自粛した。

### 4. 苦情・事故等

苦情0件、事故0件

## （7）伊香立の杜ケアホーム

### 1. 利用実績（定員38人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	366
利用実績（人）	1,048	1,045	1,070	1,096	1,055	1,055	1,104	1,055	1,079	1,034	989	1,102	12,732
平均利用人数（人）	34.9	33.7	35.7	35.4	34.0	35.2	35.6	35.2	34.8	33.4	35.3	35.4	34.8
利用率（％）	91.8	88.7	93.9	93.2	89.4	92.6	93.7	92.6	91.6	87.9	92.9	93.2	91.8

### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 年度中の利用者の入れ替わりは無かった。そのため、居室の変更などの大きな環境整備は行わなかった。
- (2) 随時夜勤者の募集等を行い、夜勤者を雇用することができた。そのため、前年度と比べて職員体制は若干充実したが、山百合ホームについてケアホームと同様の担当制を設けるところまでは至らなかった。
- (3) 新型コロナウイルスの影響もあり、もくれん定員1人の空き枠に対する利用者の選定は進まなかった。
- (4) 順次、IH、食洗器などの電化製品の修理や買い替えを行った。また、建具の修繕も簡単なところから順次行った。

- (5) 季節に応じた行事食は、感染予防の観点から利用者や職員が集まることを避け、それぞれのホームで食事を行うという形をとり、年4回実施した。
- (6) 年度の前半は新型コロナウイルスの影響で各種研修が中止となった。年度の後半は各種のオンライン研修にできるだけ参加できるように努めたが、全職員に外部研修を受けてもらう事はできなかった。
- (7) ケアホームの家族会も年度前半は実施を見送り、1月末の1回だけの開催となった。伊香立の「耕楽会」に全面的に協力し、米の購入は引き続き行っている。

### 3. 苦情・事故等

苦情0件、事故2件

## (8) 伊香立の杜ショートステイ

### 1. 利用実績 定員12人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計・平均
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	28	31	364
実利用者数(人)	66	46	67	76	72	80	81	84	86	79	77	80	74.5
延べ利用者数(人)	212	165	253	295	284	277	265	252	282	283	257	283	3,108
平均利用者数(人)	7.1	5.4	8.5	9.6	9.2	9.3	8.6	8.4	9.1	9.5	9.2	9.2	8.6人
利用率(%)	59.2	45.0	70.8	80.0	76.7	77.5	71.7	70.0	75.8	79.2	76.7	76.7	71.7

### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) コロナ禍による影響で4～5月の利用は著しく落ち込んだが、緊急事態宣言後利用率は元に戻り、緊急の受けとめも多数あったことから、年間平均としては目標の8.5人を超えることができた。
- (2) コロナによる補助金により、台所と食堂に間仕切りの壁を設置した。また、倉庫の照明をLED電球に交換した。PCについては、大きな問題がないことから、今年度は購入を見合わせた。
- (3) ケース会議に積極的に参加して各機関と情報や本人像の共有を行い、適切な支援を模索し実践することができた。緊急時対応についても、関係機関と連携し、概ね受け入れることができた。
- (4) 伊香立の杜ケアホームと合同の避難訓練は2021年1月と3月に実施する事が出来た。
- (5) コロナ禍によりイベントの開催自体が危ぶまれたが、例年通りのイベント(5月、8月、12月、1月)を縮小や小分けする等工夫して開催し、利用者の楽しみを保障することができた。
- (6) 地域版通信を発行できなかったため、地域とのつながりを持てなかった。

### 3. 苦情・事故等

苦情 7件、事故 1件

## (9) グループホーム

### 1. 利用実績 (11ホーム、定員45人) \* 開所日数は全ホームの総数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	299	303	300	310	309	300	310	300	309	308	280	310	3638
利用実績(人)	965	995	920	953	972	974	992	949	992	979	917	980	11,588
平均人数(人)	3.23	3.28	3.07	3.07	3.15	3.25	3.2	3.16	3.21	3.18	3.28	3.16	3.19
利用率(%)	86.6	88.1	82.3	82.5	84.4	87.1	85.9	84.9	86.1	85.3	87.8	84.8	85.5

体験型ホームの「ゆうやけホーム（定員4人）」については新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり今年度は事業を休止することになった。

## 2. 重点課題に対する取り組みの状況

(1) グループホームとしては利用者3人が退去となった。3人の行き先は2人が県外入所施設、1人が自宅となっている。新たに利用者2人が入居となり、年度末時点での空きは4室となった。

自立生活支援ホームについては3人が退去したが、一人暮らしへの移行はなかった。また新たに5人の入居があった。年度末時点での空きは2室となった。

(2) 財産管理について、利用者預り金規定に基づき徹底した管理を継続した。成年後見人や天津市社会福祉協議会の権利擁護事業への移行については1人の利用者もつなげることができなかった。

(3) 常勤職員による月2回の職員会議、各ホーム単位のキーパー会議を月1回（緊急事態宣言中のみ未開催）、全体キーパー会議については1年を通して新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止とした。キーパー研修については文献研修を実施することで代替研修とした。

(4) 65歳以上の利用者が7人となり、介護保険との併用ケースにおいては介護保険のケアマネージャーと連携して生活を支えている。また疾病等により医療機関との連携が必要となるケースもあり、多くのホームで体温及び血圧測定、体重測定などが引き続き必要となっている。

(5) 余暇活動について、新型コロナウイルス感染防止のため全体としてのホーム行事は中止し、各ホームでの行事企画を提案し実施した。

(6) 各ホームの消防訓練を利用者、キーパー、職員を含めて年2回実施した。非常災害時のマニュアルについても各ホームで避難所や避難場所などの再確認を行った。土砂災害警戒区域になっている南志賀ひまわりホームは土砂災害防止法に基づき避難確保計画を見直し、避難訓練も1回実施した。

(7) 桜野ホームと第2桜野ホームについては引き続き物件の契約を維持することができた。既存のホームの移転について、物件候補は上がるものの、建築基準法や住環境などの面から移転には至らなかった。

(8) 各ホームの人員配置についてはキーパーの高齢化もあり、年度末に退職者が重なってしまい体制確保が難しかった。引き続き、充足した人員配置の確保に努めていきたい。また、利用者の高齢化による介助の増加が目立ってきており、同時にキーパーの年齢層も年々高齢化しており、利用者の介助度が上がることによる支援が難しくなっている。

(9) 各ホームのエアコン老朽化に伴い、計画的に新調を行った。

(10) 地域との関わり

地域の自治会に継続して加入した。毎年、一部のホームでびわこ一斉清掃や地域の清掃活動に参加していたが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。

今年度も地域住民から利用者の行動について苦情が複数件あり、話し合いを持ち他機関と協力して対応した。

## 3. 苦情・事故等

事故 9件（うち車両事故2件）、苦情 6件

### (10) ショートスティむくの木

#### 1. 利用実績

利用定員10人＋緊急枠1人 契約者数 440人（2020年度新規契約8人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	28	26	30	31	29	30	29	29	29	31	26	28	346
利用実績（人）	71	9	70	78	76	79	81	75	80	69	71	74	833
延べ利用人数（人）	155	72	52	215	193	187	194	209	218	199	188	211	2193
平均利用人数（人）	5.5	2.8	5.1	6.9	6.7	6.2	6.7	7.2	7.5	6.4	7.2	7.5	6.3
利用率（%）	55	28	51	69	67	62	67	72	75	64	72	75	63

## 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) コロナによる自粛で特に4月～5月の利用率は大きく落ち込み、その後の密を避ける取り組みの中で、最大8人の受け止めへと方針転換を行ったため、利用率は目標の7人には達せず6.3にとどまった。しかし、6月中旬より対策をしてコロナ加算を取ることが出来たため、収入の面で大きな変化はみられていない。
- (2) 家族の緊急入院や地域トラブル、一人暮らしの不安から来る緊急利用に対応した。また、金銭搾取やネグレクトなどの避難先として虐待防止のための受け止めをした。他にも行き先のない要保護児童の受け止めも、関係会議を開いた中で進めたものの、児童養護対象であるため、連携や関係者のケースワークなどの大きな課題が浮き彫りになった。一方で、大津市内に中軽度対象のグループホームが急増し、定期利用者が入居を決めて短期入所を終了するケースが目立った。
- (3) パソコンを2台をリースで確保した。
- (4) 自治会参加を継続し、地域版のむくの木通信を発行し地域に回覧した

## 3. 苦情・事故等

事故0件 苦情0件

### (11) おおつ福祉会ホームヘルプセンター・きたくぶ(日中一時支援事業)

#### 1. 実績報告

#### ホームヘルプ実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	集計	平均
依頼件数	624	577	560	566	586	547	579	570	615	556	538	569	6887	574
実施件数	369	287	486	486	493	467	520	495	532	446	458	511	5550	463
お断り	62	50	26	30	25	36	23	43	40	46	38	36	455	38
キャンセル	193	240	48	50	68	44	36	32	43	64	42	22	882	74
利用人数	117	82	109	118	117	118	127	123	125	115	113	125	1389	116
支援時間	676	565	909	987	1025	972	1094	1037	1046	858	898	1009	11074	923
身体介護	330	296	466	505	529	491	565	530	508	431	444	496	5590	466
移動支援	346	269	443	482	496	481	530	508	538	427	454	513	5485	457

1か月の平均では、依頼件数574件・実施件数463件・断り件数38件・キャンセル件数74件・利用人数116人・利用時間数923時間となった。

#### 日中一時支援実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	20	15	19	18	16	17	19	15	19	19	16	19	212
利用者数	45	35	45	43	38	39	42	32	39	31	32	39	460
一日平均	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.3	2.2	2.1	2.1	1.6	2.0	2.1	平均2.2

※伊香立ロコは利用者の卒業に伴い、2019年度より閉所。

年間の契約者7人。大津市北部地域の放課後等児童デイサービスの普及により、日中一時支援の利用希望者は年々減っている。年間利用人数は460人で、一日平均利用者は2.2人となった。

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 年間の支援時間は11,074時間（目標は15,500時間）、身体介護の時間は5,590時間（目標8,000時間）、移動支援の時間は、5,485時間（目標7,500時間）となった。

コロナウイルスの影響もあり、4月、5月はキャンセル数が大幅に増え、以降も自粛される人もおられたことで、例年に比べ利用時間数、利用者数ともに低くなっている。

(2) 年間開所日数を289日、事業量の目標利用回数を580回としていたが、実績は212日開所と利用回数460人と目標を上回ることができなかった。

1か月あたりの平均は38人（目標48人）、1日あたりの平均は2.2人（目標2人）で、目標を上回ることができなかった。

契約者の減少、金曜日の利用希望者がいなくなったことによる閉所による影響が大きく出ていると言える。

(3) 移動支援の制度が変わることから、車両編成は見直していく必要があるため、公用車に関しては、整備していない。

(4) 自立支援協議会主催の『大津市ヘルプ事業所協議会』、『移動支援プロジェクト』にリモート参加し、情報交換や地域の課題の認識を深めた。

(5) 年間10回のケース会議に出席、それぞれのケースで関係機関と緊密にやりとりをし、本人理解を深めた上で支援にあたるよう心がけた。

## 3. 苦情・事故等

ヘルプ : 苦情 2件 事故 8(車両)件

日中一時 : 苦情 0件 事故 0件

### (12) 相談支援事業所ひびき

#### 1. 実績報告

##### ① 計画・モニタリング数

	合計	計画	モニタリング
障害者	348	152	196
障害児	70	36	34
合計	418	188	230

##### ② 支援実人数

	合計	身体	知的	精神	発達
障害者	274	4	261	6	3
障害児	46	1	43		2
合計	320	5	304	6	5

##### ③ 相談延件数

	合計	身体	知的	精神	発達
障害者	4451	121	4189	32	109
障害児	606	51	512		43
合計	5057	172	4701	32	152

職員体制は、相談員4人（うち1人育休中）、補助1人。

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 大津市の指定特定相談（計画相談：モニタリングと計画更新）及び委託相談（一般相談）をおこなった。相談技術の向上のため、自立支援協議会の各会議に参加し、事例や情勢について学んだ。また、

数は少なかったが、オンラインで開講された研修に参加した。育休中の相談員一人が現任研修を受講した（受講期限となったため）。

(2) パソコン5台をwindows10へ更新するためリースで契約した。

(3) 重点的に関わったケースを中心に、毎月、自立支援協議会の相談支援連絡会に上げ、地域課題として他の相談支援事業所の相談員や障害福祉課と一緒に検討した。困難ケースについては、法人内外の機関に積極的につながりながら対応した。特に今年度は、長年住み慣れた地域を離れて県外の入所施設やGHへ移行したケースが複数あり、時間をかけて対応した。他にも、家族の病気や高齢化により緊急対応が必要となったケースや、近隣住民への迷惑行為により地域生活の継続が困難となったケース等があり、各関係機関との密な連携が必要となった。

(4) 求められる条件が現状の体制では達成できなかったため、「大津市障害児者地域生活支援拠点等整備事業」は取得していない。

### 3. 苦情・事故等

苦情 0件 事故 0件